

令和5年度 全国学力・学習状況調査 羽島市の結果と今後の指導について

◇質問紙調査より

1 子どもたち自身のことについて

- 「人の役に立つ人間になりたい」と思っている。
- 困りごとや不安がある時に、身近にいる大人に相談して解決しようとしている。
- 学校の授業以外で勉強をしている児童生徒の割合が高く、家庭での学習を計画的に進めている。
- △「いじめはどんな理由があってもいけない」と考える児童生徒は多いが、全員ではない。
- △児童生徒の自己肯定感をさらに高めていくことに課題がある。
- △学習では、興味・関心をもって進んで学習し、学ぶことの意味や意義に対する考えを深めることに課題がある。

〈今後に向けて〉

- ・いじめはどんな理由があってもいけないと言いきれない児童生徒の思いに寄り添う必要がある。
- ・生活面では、夢や目標に向かって、自ら進んで自分たちの生活を高めようとする意欲を高めたい。そのため、活動の目的や目標を具体的にするとともに、児童生徒が自己決定する場面を大切にしていきたい。
- ・学習面では、協働的な学びを重視した指導の工夫をすることで、児童生徒が主体的に学ぶことの楽しさを味わい、学ぶことの意味や意義を実感できるように授業の改善を図ることが大切となる。

2 子どもたちと地域とのかかわりについて

- 地域や社会のために何かしてみたいと考えている児童生徒が多い。
- 各校で、地域人材を生かした学習が工夫されたり、職場体験等で社会とのつながりを感じる機会が増えたりして、自らの生き方

を見つめる学びが進められている。

△昨年度に引き続き、地域の行事に参加していると回答する児童生徒の割合は低い。

△「住んでいる地域のことを知ってもらいたい」と考える児童生徒の割合が、全国に比べて低い。

〈今後に向けて〉

- ・地域や学校では、積極的に行事の見直しを図られ、児童生徒のかかわり方に変化が生まれることが予想される。そのため、学校や地域、家庭の連携を強化し、持続可能な方向性を共に考えていくことを大切にしたい。
- ・児童生徒が、グローバルな視点をもって主体的に地域や社会にかかわれるよう、学校内外の多様な人材を生かした、社会に開かれた教育課程を編成し、実行していくことが必須となる。

3 学校の学習での ICT 機器の活用について

- 学校の授業では、積極的に ICT 機器を活用することが定着している。
- 児童生徒は ICT 機器を活用した学習の効果を実感していて、役に立つと感じている。
- △学校の授業以外で、ICT 機器を勉強のために使っている児童生徒の数は少ない。

〈今後に向けて〉

- ・ICT 機器を活用した学びについて、新たな可能性に着目しながら実践を重ね、その内容をさらに充実させるとともに、一つ一つの学習効果を丁寧に検証し、積極的に情報を共有していくことが大切になる。
- ・多様な情報を、時間や空間を問わずに収集・整理・分析し、情報共有できるといった、ICT を活用した学びの特性や強みについて、児童生徒や保護者と共有する機会を大切にし、家庭での学習につなげる工夫が必要とされる。

【国語】

《小学校及び義務教育学校（前期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は、全体的に下回っている。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」にかかわる設問に課題がある。
⇒日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れる指導の充実が必要
- ・「話すこと・聞くこと」にかかわる設問に課題がある。
⇒目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実が必要

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「読むこと」（中心となる語や文を見付けて要約すること）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「書くこと」（自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫すること）にかかわる平均正答率が低い。

《中学校及び義務教育学校（後期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は、全体的に上回っている。
- ・「情報の扱いに関する事項」にかかわる設問に課題がある。
⇒実際に話したり聞いたり、書いたり読んだりする場面で活用できる指導が必要
- ・「書くことにかかわる設問」に課題がある。
⇒読み手の立場に立って、考えと事例等との関係を明確にして記述できる指導が必要

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「話すこと・聞くこと」（目的や場面に応じて質問する内容を検討すること、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること、目的に沿って自分の考えをまとめること）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「書くこと」（読み手の立場に立って、文章を整えること）にかかわる平均正答率が低い。

小学校及び義務教育学校（前期課程）では、「読むこと」に関する指導で、叙述を根拠とした読み取りやキーワードを用いた学習の振り返りをしてきたこれまでの指導の成果が表われている。

一方で、「書くこと」の定着を確かめる問題には弱さが見られた。特に自分の考えをまとめる問題では、グラフからわかることと「カード」からわかることの両方が書けていないので、グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することに課題がある。

今後は、考えをまとめる際は、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりする指導を充実させていきたい。

中学校及び義務教育学校（後期課程）では、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的な質問をする力が定着している。小学校段階に比べて中学校段階に入ると、飛躍的に話の内容を聞き取り、理解する力が向上している。

一方で、「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整える力」に課題がみられる。

今後は、特に「書くこと」における「推敲」にかかわる指導について改善する必要がある。

【算数・数学】

《小学校及び義務教育学校（前期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は全体的に下回っている。
- ・「数と計算にかかわる設問」にかかわる設問に課題がある。
⇒場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法や式や言葉を用いて説明できる指導の充実が必要
- ・「データの活用」にかかわる設問に課題がある。
⇒特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、他者に分かるように伝えることができる指導の充実が必要

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「変化と関係」（伴って変わる二つの数量について、表の中の知りたい数を求めること、伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いること）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「図形」（正三角形の意味や性質についての理解、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること）にかかわる正答率が低い。

《中学校及び義務教育学校（後期課程）》

（１）全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は全体的に上回っている。
- ・「図形」にかかわる設問で、平均正答率が高い。
- ・「データの活用」にかかわる設問で、平均正答率が高い。

（２）羽島市の平均正答率の特徴より

- ・「数と式」（数と整式の乗法の計算、問題場面における考察の対象を明確に捉えること）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「図形」（空間における平面が、同一線上にない３点で決定されることの理解）にかかわる平均正答率が低い。

小学校及び義務教育学校（前期課程）では、問題場面を把握して、変化の特徴や計算のきまりを見つけることができている。

その一方で、図形の性質や計算のきまり等は理解していても、問題場面や条件が変わると問題が解決できない。

今後は、小学校段階から、授業で学んだ計算や図形のことを活用した問題に取り組む指導を充実させていきたい。

中学校及び義務教育学校（後期課程）では、特にデータの活用の領域が、全国平均を上回っている。全体的に見ても、全国平均を概ね上回っており、指導の成果が表れている。

一方で、問題解決の過程や結果を説明する問題は、正答率も低く、全国平均を下回っているものもあることから、課題としてとらえられる。

今後は、協働的な学びを生かして、問題解決の根拠を一人一人が繰り返し表現するような授業をしていくことが必要である。

【英語】

《中学校及び義務教育学校（後期課程）》

(1) 全国の平均正答率との比較より

- ・全国に比べ、羽島市の平均正答率は、全体的に上回っている。
- ・「読むこと」にかかわる設問で、平均正答率が高い。
⇒情報を正確に読み取ることができている。
事実と考えを区別して読むことができている。
- ・「書くこと」にかかわる設問で、平均正答率が高い。
⇒未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができている。
相手に依頼する表現を正確に書くことができている。

(2) 羽島市の平均正答率より

- ・「聞くこと」（情報を正確に聞き取ること）にかかわる平均正答率が高い。
- ・「書くこと」（社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと、疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を書くこと、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと）にかかわる正答率が低い。

全国の傾向としては、日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることはできている。その一方で、日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすることに課題がある。これらは羽島市にも当てはまると言える。

特に羽島市では、小学校段階より、デジタル教科書や ICT 機器の活用を積極的にしていくことで「読むこと」や「聞くこと」において、短い文を正確に理解したり区別して聞いたりすることができている。

その一方で、市としては、小中での学びの連続性などに課題を抱えており、自分の考えをまとめて書くことや、話すことにつまずきを感じている生徒が多い。

今後は ICT 機器を活用した協働的な学びをさらに充実させるとともに、小中の連続性のあるスムーズな学びを構築するために、小中教員の積極的な交流や資質向上研修を推進させたい。